

平成24年度国立大学法人等
職員採用（図書系）二次試験問題

注 意 事 項

1. 問題は**20問（23ページ）**で、解答時間は**2時間**です。
2. この問題は、後ほど回収します。切り取ったり、転記したり、持ち帰ったりしてはいけません。
3. 下欄に第一次試験受験番号、第一次合格通知書番号及び氏名を記入してください。

第一次試験受験番号	第一次合格通知書番号
氏名	

指示があるまで中を開いてはいけません

【No. 1】

次は、明治期の日本の図書館に関する記述である。(1)～(3)に該当する語句を下から選んで記号で答えなさい。

- 1) 「図書館」という言葉が使われたのは、明治10年(1877)の東京大学法文理学部図書館の設置が最初であるが、その前に日本で最初の官立公開図書館として文部省所管の (1) が明治5年(1872)に湯島の旧大学講堂に設立された。
- 2) 明治25年(1892)に設立された (2) は、明治36年(1903)8月に、日本の図書館員養成教育の始まりとされる第1回図書館事項講習会を開催した。また、明治40年(1907)には『図書館雑誌』を創刊している。
- 3) 明治32年(1899)に図書館令が公布され、図書館数が飛躍的に増加し、先進的なサービスを行う図書館も見られるようになった。秋田県立図書館長の (3) は、明治35年(1902)に日本で初めての巡回文庫を開始した。
- a. 佐野友三郎 b. 書籍院 c. 書籍館 d. 書籍縦覧所
 e. 青年図書館員聯盟 f. 大日本教育会 g. 田中稻城 h. 田中不二麿
 i. 図書館講習所 j. 日本文庫協会 k. 法律書庫 l. 湯浅吉郎

【解答欄】

(1) (2) (3)

【No. 2】

次は、図書館サービスに関連する我が国の現行著作権法についての記述である。(1)～(4)に該当する語を下から選び記号で答えなさい。

図書、雑誌等の資料の貸出サービスに関する著作者等の一般的な権利として、著作権法では(1)権が規定されている。著作権法の第26条の三では、著作物を(1)により公衆に提供する権利は、著作者が専有するとされている。

ただし、第38条4項において、著作権の制限条項として、(2)された著作物であれば、(3)を目的とせず、料金を受けない場合には、公衆に提供することができる。この範囲において、図書館は著作者等の許諾や個別の契約によらず貸出サービスを実施することができる。

なお、ビデオテープやDVDなどに映像が記録されている場合は「映画の著作物」として、(4)権という別の権利が働くため、著作権法上の取り扱いが上記とは異なっている。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| a. 印刷 | b. 営利 | c. 閲覧 | d. 開示 | e. 公開 |
| f. 購入 | g. 公表 | h. 上映 | i. 譲渡 | j. 貸与 |
| k. 登録 | l. 販売 | m. 頒布 | n. 複写 | o. 編集 |

【解答欄】

(1) (2) (3) (4)

【No. 3】

大学図書館を運営していくための政策的な方向付けとして各種の答申、建議及び報告等が出されているが、平成22年12月に科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会から出された、「大学図書館の整備について（審議のまとめ）」に関する記述として、正しいものには○を、間違っているものには×を答えなさい。

- (1) 情報リテラシー教育は、大学図書館が主体となって取り組むことが求められ、図書館職員が教員を兼任するなどして、直接授業を担当することも視野に入れるべきである。
- (2) 外国雑誌価格の高騰による国内大学図書館での収集タイトル数の激減問題に対応する方策として、主要な学問分野の外国雑誌を責任分担収集することが必要である。
- (3) 全国の大学図書館に所蔵される資料の目録所在情報は、所蔵資料の電子化のための基礎となるものであり、目録所在情報の遡及入力をさらに促進することが必要である。
- (4) 電子ジャーナルの効果的な整備に向けての体制を強化するとともに、冊子体の学術雑誌に関して、我が国の大学図書館全体として分担保存しておくことについて検討する必要がある。

【解答欄】

- (1) (2) (3) (4)

【No. 4】

次のうち、国立情報学研究所が実施する事業には○を、他機関が実施する事業には×を答えなさい。

- (1) 学術機関リポジトリ構築連携支援事業として、大学等における機関リポジトリの構築と連携を促進するための委託事業を実施している。また、各大学等の機関リポジトリに蓄積された学術情報を横断的に検索可能なポータルサイトも提供している。
- (2) 国公立の各大学から送付される印刷版の学位論文（博士）を所蔵しており、所蔵資料の大規模デジタル化事業の一環として、大学と協力して学位論文の著者に電子化の許諾（共通許諾）を求めた。
- (3) 国公立大学の図書館、コンピュータ及びネットワーク等についての現状を明らかにし、その改善の基礎情報とすることを目的とした学術情報基盤実態調査を毎年実施し、結果を公表している。
- (4) 全国の大学図書館等がオンライン共同分担目録方式により所蔵資料の総合目録データベースを形成し、それを利用した図書館間の相互貸借等を行う目録所在情報サービスを提供している。
- (5) 図書館等におけるレファレンスサービスや一般利用者の調査研究活動を支援するために、全国の大学図書館、公共図書館、専門図書館等と共同で、レファレンス事例、調べ方マニュアル、特別コレクション等に関するデータを蓄積・提供するレファレンス協同データベース事業を実施している。

【解答欄】

- (1) (2) (3) (4) (5)

【No. 5】

次は、和古書に関する用語の説明である。(1)～(3)に該当する語句を下から選び記号で答えなさい。

- (1) 文禄年間から寛永年間(16世紀末から17世紀前半)にわたる約50年間に出版された版本の一種である。この印刷手法は外来のもので、二方面から招来された。一つは豊臣秀吉により朝鮮からもたらされ、もう一つはキリスト教宣教師により伝来した。
- (2) すでに典籍として成立しているものを別の形にする場合の元の本のことで、写本を版本にしたり、写本や版本を活字本にしたりする場合、その元になった本、もしくは本文を言う。
- (3) 中古から近代初頭(11世紀後半から19世紀後半)に至るまでの間、盛んに作られて広く学ばれた初歩教材、教科書である。内容は、道徳、消息、語彙、地理、歴史産業等の諸分野に及ぶ。

- | | | | | |
|---------|--------|----------|--------|--------|
| a. 往来物 | b. 瓦版 | c. 近世活字本 | d. 草双紙 | e. 稿本 |
| f. 古活字本 | g. 古筆切 | h. 袖珍本 | i. 製版 | j. 丹緑本 |
| k. 縮緬本 | l. 底本 | m. 定本 | n. 手鑑 | o. 覆刻本 |

【解答欄】

- (1) (2) (3)

【No. 6】

次は、分類法の種類についての説明である。これに基づき分類法（分類表）を整理した場合、(1)～(3)に該当する分類法（分類表）を下から選び記号で答えなさい。

分類法を構造から見ると、列挙型と分析合成型に分けることができる。列挙型は、主題を表す分類をあらかじめ分類表中に列挙しておき、列挙されたものの中から資料の主題に対応する分類項目を選び、そこに分類することを基本とする。分析合成型は、各知識分野の下で基本概念を分析・抽出し、これを基本的な分類項目として分類表に用意しておき、資料の主題分析の結果に応じて、主題の構成要素と分類項目を対応づけ、それらの分類記号を連結記号により合成して主題を表現する。

一方、分類記号法には、階層表示型と序列表示型がある。階層表示型は、分類の対象となる概念や事物を一つの系統のなかに組み込み、それらを階層として把握・表現する。序列表示型は、単に順序をつけただけで、表示された概念や事物の相互間に関係を想定せず、分類の対象となる概念や事物を可能な限り数え挙げた上で体系を作り上げ、その後に任意に記号を割り振る形で分類表を構成する。

		構造から見た分類法の種類	
		列挙型	分析合成型
分類記号法の種類	階層表示型	(1)	(3)
	序列表示型	(2)	

a. CC

b. DDC

c. NDLC

【解答欄】

(1)

(2)

(3)

【No. 8】

次は、「日本目録規則 1987 年版改訂 3 版」の本則に基づき、例示の図書について単行レベルで作成した目録記述である。(1)～(6)に該当する語句等を答えなさい。

(1) / (2)
 (3) : 共立出版 , (4)
 10, 169p ; 22cm. -- ((5) ; (6))

データサイエンス・シリーズ 3

**データ
マイニング**

福田剛志
森本康彦 著
徳山 豪

共立出版

データサイエンス・シリーズ③

データマイニング

福田剛志
著者 森本康彦
徳山 豪

発行所 共立出版株式会社

〒112-8700 東京都文京区小日向 4-6-19

2001 年 9 月 1 日 初版第 1 刷発行
 2002 年 12 月 10 日 第 2 刷発行

ISBN 4-320-12002-7

【解答欄】

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

【No. 9】

次は、図書館における資料の選択方法についての記述である。正しいものをすべて記号で答えなさい。なお、直接選択とは書店等で資料を確認して選択する方法を、間接選択とは各種の資料選択用ツールを用いて選択する方法を指す。

- a. 直接選択では、選書用ツールに掲載されない資料を手にとることができるため、間接選択よりも網羅的な選択が可能である。
- b. 間接選択は、直接選択に比べて選択の場所に制約がないことに加え、時間的な制約も受けにくい点が長所の一つである。
- c. 直接選択の方が、必要な資料か否かを判定するための情報を多く得ることができるため、より正確に資料を選択することが可能である。
- d. 間接選択では、資料の納入までに時間がかかる可能性や、入手できない資料が存在する可能性がある。

【解答欄】

【No. 10】

次は、「基本件名標目表 第4版」の一部である。(1)～(3)には連結参照を示す記号である「BT」「NT」「RT」「TT」のいずれかが入る。正しい組み合わせを下から選んで記号で答えなさい。

ニホンブンガ 日本文学* ⑧910 ⑨910

UF：国文学

(1)：漢文学. 戯曲(日本). 紀行文学. 記録文学. 国文. 詩(日本). 詩歌. 小説(日本). 随筆. 大衆文学. 日記文学. 日本文学—作家. 日本文学—評論. 日本文学—歴史. 翻訳文学. 物語文学. 琉球文学.

ヘイケモノガ 平家物語* ⑧913.434 ⑨913.434

(2)：日本文学 193

(3)：軍記物語

(1)：平家物語—研究. 平家物語—梗概. 平家物語—諸本. 平家物語—撰抄. 平家物語—評釈.

一ケンキュウ 平家物語—研究* ⑧913.434 ⑨913.434

(2)：日本文学 193

(3)：平家物語

- a. (1) TT (2) BT (3) NT
- b. (1) NT (2) RT (3) BT
- c. (1) NT (2) TT (3) BT
- d. (1) BT (2) TT (3) NT
- e. (1) BT (2) RT (3) TT

【解答欄】

【No. 11】

レフェラルサービスの説明として正しいものを下から1つ選び記号で答えなさい。

- a. 図書館の資料や情報源に利用者が自分でアクセスできるように、図書館資料や情報検索システムの使い方などを案内するサービス。
- b. あらかじめ登録された利用者の個々の研究テーマに適した新しい情報を、図書館員が情報検索などを行って継続的に提供するサービス。
- c. 利用者の質問に対し、図書館員が自館資料を使って、回答となる情報あるいは資料そのものを提供するサービス。
- d. 利用者の質問に対し、それに回答できる専門機関や専門家についての情報を紹介したり、それらに照会して答えとなる情報を入手して提供したりするサービス。
- e. 特定の雑誌の最新号から目次をコピーし定期的に利用者に提供するなど、利用者が関心をもっている主題分野のカレントな情報を提供するサービス。

【解答欄】

【No. 12】

次は、参考図書およびデータベースの特徴を記述したものである。(1)～(3)の書名あるいはデータベース名を答えなさい。

- (1) 明治12年から35年間をかけて完成したわが国最大規模の百科事典。歴代の制度、文物、社会百般の事項について明治以前のあらゆる文献からの引用が掲載されている。現在は、国文学研究資料館、国際日本文化研究センターから検索システムが提供されている。
- (2) 科学技術振興機構（JST）が収集している科学技術資料から、年間約100万件におよぶ文献の最新記事データや要約を分野別にまとめて日本語に翻訳して提供する総合抄録誌。現在は、冊子体、Web版等で提供されている。
- (3) 日本大百科全書、日本国語大辞典、イミダス、日本人名大辞典などわが国の百科事典、辞事典を中心に構築された総合データベース。収録項目数は200万件を超える。東洋文庫、週刊エコノミストなどの全文閲覧も可能である。

【解答欄】

(1)

(2)

(3)

【No. 13】

「図書館パフォーマンス指標」の説明として正しいものを下から1つ選び記号で答えなさい。

- a. 図書館法第7条の2の規定に基づき定められ、図書館行政を推進するための指針として、図書館のあるべき姿を記述している。提供すべきサービスを挙げるとともに、それぞれのサービスの性質に対する説明をしている。数値目標は含まれず、基本的には定性的な基準とみなすことができる。
- b. 顧客の主観に基づくサービス品質概念を、測定可能な形式に定義し具体化した SERVQUAL を図書館向けに展開したものである。米国の研究図書館協会（ARL）が2000年から開発のプロジェクトを進め、現在では、北米だけでなく各地の図書館のアセスメント・パッケージとして広く使われている。
- c. 米国の研究図書館協会（ARL）と大学・研究図書館協会（ACRL）によって、1978年に作成された。蔵書構築、サービス、職員、財源等の課題を解決するための指針として、これらの適切性を評価したり、目標を設定する際のツールとして広く用いられている。
- d. 図書館のサービスや業務の有効性・効率性・品質を評価するためのツールを志向し、1998年に国際規格「ISO 11620」として定められた。2008年の第2版では、「情報資源、アクセス及び基盤」、「利用」、「効率性」、「発展可能性」の4つのカテゴリーのもとに、44の項目が規定されている。
- e. わが国の大学や学部学科の新增設の認可を受ける際の審査に用いられ、「大学は、学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に備えるものとする」とし、情報提供システムの整備、相互協力、専門的職員の配置についても規定している。

【解答欄】

【No. 14】

次は、ある大学図書館の年間統計である。この図書館の貸出密度と蔵書回転率を小数点以下2桁（3桁目を四捨五入）で答えなさい。なお、表中の数字はすべて年度末時点のものである。

サービス対象者数	蔵書冊数	年間貸出冊数	図書館職員数	年間受入冊数	年間除却冊数
4,000 人	390,000 冊	37,000 冊	7 人	8,700 冊	140 冊

【解答欄】

貸出密度 =

蔵書回転率 =

【No. 15】

次は、コンピュータ上でのデータ交換に使用されるデータ形式に関する記述である。

(1) ～ (3) に該当するデータ形式名を英語の略称で答えなさい。

- (1) 米国の Adobe Systems 社が開発し、2008 年に国際標準化機構によって「ISO 32000-1」として標準化された、インターネット上で電子文書を流通させるためのファイル形式である。元の文書を概ね原形どおりの印刷物のイメージで表示・印刷することが可能であり、多くの電子ジャーナルサービスにおいて用いられている。
- (2) 文書やデータの意味や構造を記述するためのマークアップ言語の 1 つで、SGML の後継言語である。目的に応じて自由にタグを定義することが可能であるなど拡張性が高く、HTML が Web ページを記述するための言語であるのに対し、異なるアプリケーション間のデータ交換など幅広い用途に用いられる。
- (3) ファイルにデータを記録する際の形式の 1 つで、「カンマで区切られた値」を意味し、1 レコード内のデータをカンマで区切って 1 行に並べたものである。表計算ソフトウェアや多くのデータベースソフトウェアにおいてデータ保存用の形式として採用されている。

【解答欄】

(1)

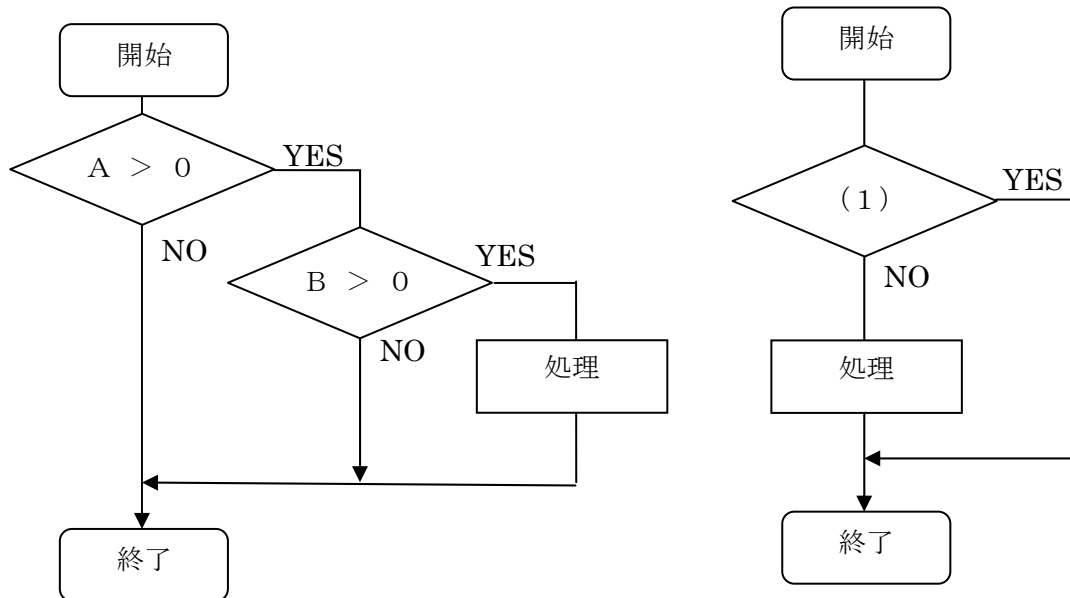
(2)

(3)

【No. 16】

整数型の変数AとBがある。AとBの値にかかわらず、以下の2つのフローチャート（流れ図）が同じ「処理」を実行するとき、(1)に入る条件式を下から選び記号で答えなさい。

なお、ANDは論理積を、ORは論理和を、「 \bar{X} 」は条件Xの否定を表す。

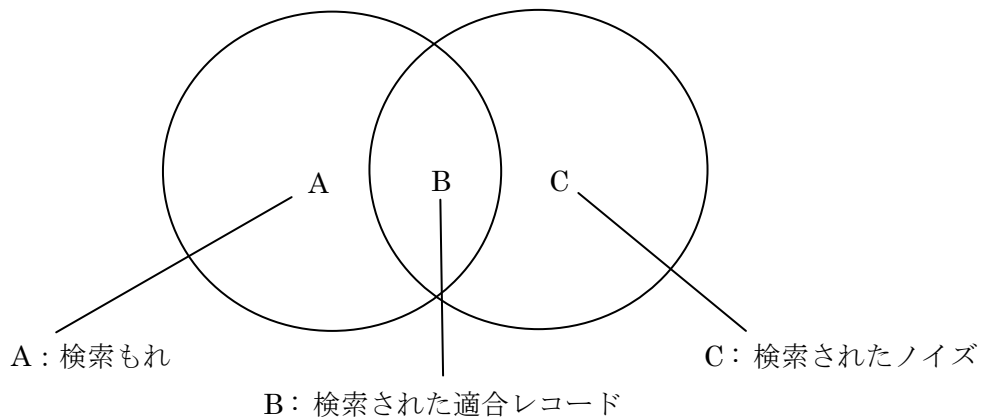


- a. $(A > 0) \text{ OR } (B > 0)$ b. $(A > 0) \text{ AND } (B > 0)$ c. $\overline{(A > 0) \text{ OR } (B > 0)}$
 d. $\overline{(A > 0)} \text{ OR } \overline{(B > 0)}$ e. $\overline{(A > 0) \text{ AND } (B > 0)}$

【解答欄】

【No. 17】

- (1) 次は、情報検索における適合レコードと検索されたレコードを表した図である。再現率と精度を、図の記号を使って式で表しなさい。



- (2) 「欧州の財政危機」という情報要求に対して、論理的に最も再現率の高い検索式はどれか、記号で答えなさい。
- 欧州 AND 財政危機
 - 欧州 AND ユーロ AND 財政危機
 - (欧州 OR ユーロ) AND (財政危機 OR 債務危機)
 - 欧州 NOT ユーロ AND (財政危機 OR 債務危機)

【解答欄】

(1)

再現率 =

精度 =

(2)

【No. 18】

次は、卷子本から綴じ本への移行について書かれた記述である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

It took a long time, from about A.D.100 to after 400, for the codex to supplant the roll. Yet its advantages were obvious from the outset. When it was newly on the market, Martial, as we pointed out, recognized one advantage, its greater capacity, a feature that made it particularly convenient for travelers. Another was ease of access to the contents: a reader of a roll who was looking for a particular passage had to keep rolling up with one hand and unrolling with the other, whereas readers of codices merely flipped pages. Moreover, after finding what they sought, if they wanted to refer to it again, they could keep a finger on the page or slide in a piece of papyrus to flag it while they went on reading. A further advantage of the codex was that it was customarily bound between covers, most often of wood, and this kept the pages safe from damage; rolls were piled up on the shelves, or stacked in boxes or buckets, with no protection.

Why, then, did the adoption of the codex take so long? A key reason surely was the heavy weight of habit. Readers were accustomed to rolls; the codex was new and strange, it took getting used to. The same was true for the scriptoria's craftsmen: for centuries the book-makers had been putting together rolls, and the copyists writing on them.

There is, however, one striking exception to the laggard transition from roll to codex. The finds from Egypt demonstrate unequivocally that from the very beginning Christians used only the codex for their copies of the Bible and strongly favored it for their other religious writings. The earliest preserved copies of the Bible date to the second century or the beginning of the third; there are eleven that belong to this period (six containing parts of the Septuagint, the Greek translation of the Old Testament that is traditionally dated about 270B.C., and five containing parts of the New) and every one of these eleven is a codex.

(1) 卷子本に比べて綴じ本が優れている点を3つ簡潔に日本語で答えなさい。

(2) 卷子本から綴じ本への移行には、紀元100年頃から400年以後にいたる長い時間がかかったが、その移行における例外を簡潔に日本語で答えなさい。

【解答欄】

(1)

1) _____

2) _____

3) _____

(2)

【No. 19】

次は、米国の研究図書館がおかれている環境に関する調査・分析からの抜粋である。以下の2つの問いに答えなさい。

Exceptional progress has been made to transform research libraries into popular destinations for productivity and learning. Surveys suggest that libraries are seen as the logical providers of primary learning spaces on campus. The undergraduate learning commons is a celebrated success on most campuses. Faculty and graduate students will become more outspoken in their expectations that libraries should address their research and contemplative needs via physical space solutions. There is no consensus on what these responses should be.

Branch libraries may be expected to relinquish the bulk or entirety of their space to the academic departments they serve. Some libraries and their branches will anticipate this draw down, or suggest it themselves, and respond with services, resources, and instruction programs that are primarily virtual. Some branch library personnel will be deployed into critical new areas, thus making down-sizing of branches an “enabler” for new initiatives.

Main library buildings may come under increased pressure to accept new tenants and services (“space wars”). Libraries will need to counter with strategies that demonstrate a capacity for supporting research, teaching, and learning, at times in partnership with library-preferred tenants whose service to students and faculty complements their own. To have no plan will risk forfeiture of space.

The strongest cases for retaining library real estate will be grounded in data derived from user-needs assessments, and qualitative and quantitative evidence of the benefits that libraries deliver to users within these spaces.

Future success, in part, will be fostered by the adaptability of staff; the recruitment of differently skilled staff; the reorganization of library work and services around emerging academic, research, and learning practices; and a commitment to experiment, innovate, and take risk.

- (1) 図書館のスペースに関して、中央図書館については新しいテナントやサービス受け入れの圧力が強まる可能性があげられているが、分館については何が予想されているかを日本語で答えなさい。
- (2) 図書館施設を保有し続けるための強力な論拠となり得るのは、利用者ニーズの評価の他に、何に基づくデータであると述べられているかを日本語で答えなさい。

【解答欄】

(1)

(2)

【No. 20】

次は、2005年に日本の研究者を対象に実施された研究活動及びオープンアクセスに関する調査結果の要約の一部である。この記述に合致するものを下の a ~ e から1つ選んで記号で答えなさい。

29% replied that they were aware of Open Access(OA), while according to A. Swan's JISC Report(2004), over 60% of those who have not published through open access journals(OAJ) were aware of the concept. This evidences that Japanese researchers do not have enough knowledge concerning OA.

Only 17% of the respondents answered they have plans to publish through an OAJ in the next three years. The primary reason for more than half of those respondents who choose an OAJ is a belief that the principle of free access to research information is important.

In contrast, those who answered that they do not plan to publish through an OAJ (21%) stated that the most important reason for not doing so is that they are not familiar enough with OAJs in their fields to be motivated to submit to them.

Most researchers feel that the author's fee should be subsidized by research grants. More than two thirds (69%) of the respondents said that, if publishing their work in an OAJ were a condition prescribed by the contract with grant-awarding bodies, they would accept the condition.

About 20% of the respondents expressed concern about the possible breakdown of the conventional scholarly communication system which the proliferation of OA might bring about, while over 40% stated they could not make any judgment concerning this subject. Importance of certain aspects of traditional journal publishing carried out by publishers, including peer review and quality control was pointed out.

Regarding researchers' self-archiving, only 20% of the respondents have self-archived at least one article during the last three years in one of three possible ways: by placing a copy of the article in an institutional (or departmental) repository, in a subject repository, or on a personal or institutional website. Most Japanese researchers are still unaware of the possibility of providing open access to their work by self-archiving.

- a. ほとんどの研究者は、オープンアクセスを推進するため、研究助成金による研究成果をオープンアクセスジャーナルに発表することを研究助成団体は義務付ける必要がある、と考えている。
- b. 今後3年以内にオープンアクセスジャーナルに論文を発表する計画があると回答した研究者は、その理由として無料アクセスの原則が重要であることを挙げている。

- c. 今後3年以内に自分の研究成果のセルフ・アーカイビングを行う計画があると回答した研究者は、約五分の一である。
- d. 伝統的な学術雑誌について、査読による品質維持よりも持続可能なビジネスモデルの構築が重要であると、研究者は指摘している。
- e. 日本の研究者は、オープンアクセスジャーナルへの投稿経験が少ないが、オープンアクセスについて十分な知識を持っている。

【解答欄】